

研修を実施しています

令和元年度から令和2年度にかけて、「入門的研修」を3回、「生活援助研修」を1回実施し、43人が修了しました。これまでに24人が就労し、見守りや食事準備、食器洗い、レクリエーション、清掃、シーツ交換などに従事しています。



令和5年度も実施を予定しています。興味のある人には個別にご案内しますので、担当までご連絡ください!

読んでみて!

介護現場で働く人の声

「やりがい」や「苦勞している点」、「大変だと感じる点」、「印象に残ったエピソード」などを、市内のケアマネジャーの皆さんにインタビューしました。



市ホームページ「ケアマネジャー」介護保険サービス利用者と家族の強い味方!



食事の準備、片づけ、掃除、洗濯、買い物、話し相手、送迎、などなど

生活援助サービスへの助っ人、求む!

介護の現場には、普段生活する上で身についた力を発揮できる業務がたくさんあります。これまでの市の取り組みと高校生による介護への活動を紹介します。

問い合わせ 長寿介護課 宮崎真菜 ☎0076

歳を重ねると、大きい物や重い物を運んだり、高いところに手を伸ばすなどの場面で「つらい(怖い)」といった体への負担(不安)を実感することが増え、これまでよりも手助けを求めたくなります。こうしたことを感じやすくなる高齢者の数は年々増加が見込まれる一方、働き盛りの人は減少しています。

介護の現場は人を求めています

介護の現場には、大きく分けて、身体の維持を支援する「身体介護」と、家事などを行い生活の維持を支援する「生活援助(家事援助)」の2つの業務があります。

例えば、介護サービスの1つに、高齢者の自宅に訪問介護員(ヘルパー)が訪問し、入浴、排せつ、食事の介助などの日常生活上の援助を行う「訪問介護」があります。

ヘルパーは「身体介護」はもちろん「生活援助(家事援助)」も行い、掃除や洗濯、買い物、調理といった日常生活の一部分をサービスとして提供しています。

しかし、ヘルパーの高齢化による退職や新たなスタッフの確保が難しいなどの理由から、提供できるサービス量にも限度があります。資格取得を要する身体介護サービスの提供を確保するため、生活援助サービス

椋原高校グローバル部がデイサービスの利用者に聞いて考えました / 年を取ってどういうこと?

県立椋原高等学校のグローバル部では、市役所と協力し、自分たちで地域の魅力や課題などを見つけ、部活動として探究活動を進めています。今回は、介護に興味を持っている生徒の皆さんが、「年を取ってどういうこと?」というテーマで、デイサービスの利用者の皆さんにインタビューを実施しました。

以前と楽しみは変わった?



変わらない!
今も昔も、外出したり人と話したりすることが楽しみの1つだよ

普段の生活で困ることは?



段差の昇り降り、風呂での移動や浴槽のまたぎ。それと若者の略語を理解することが大変

これからやってみたいことは?



体操して、元気で長生きがしたい!

インタビューを終えて... 今日から私たちにできること

“道で高齢者にお会いしたら **元気よくあいさつし、少し話しかけてみる。**”

“楽しく話すために、高齢者と話す際には略語を使わない。お互いに理解できる言葉を使う。”

インタビューで高齢者の皆さんが楽しそうに話す様子を見て、「年を取るのは悪いことばかりではない」と実感しました。高齢者と若者とで会話し、交流が増えることで、高齢者の孤独感が減っていけば良いと思います。

[インタビュー実施者]

写真左から、三堂大地さん(1年生)、山田ころろさん(1年生)、澤入百花さん(2年生)、松林あやさん(2年生)



普段の生活力が生きる「生活援助」の内容(一部)

- ▶ 食事の準備、片づけ ▶ 清掃
- ▶ シーツ交換 ▶ レクリエーション
- ▶ 送迎 ▶ 買い物 ▶ 電球の交換
- ▶ ゴミ出し ▶ 草とり ▶ 話し相手 などたくさん!

病院

の提供を縮小している傾向がみられます。特別養護老人ホームやグループホームなどの施設系サービスは、高齢者の生活と介護を1つの施設内で行います。そのため、介護に連動する「生活援助」もたくさんあります。現状では、24時間体制の中で働く体力を維持し、体を動かすコツを学んだスタッフが活躍しています。しかし、利用者に対して必要なスタッフの配置はできていても、「もう少し負担を軽くできるように人手が欲しい」と望む施設もあります。

あなたの「家でやっていること」や「身の回りの好き・得意なこと」が大きな力になります

市では、「好きなことやできることを活かして働きたい」「誰かの役に立ちたい」「介護技術や知識を身につけて家族の介護に役立てたい」と思っている人が、人手を必要としている介護サービス事業所で働けるような環境整備を実施しています。皆さんが、普段の生活で行っている手仕事をサービスとして持ち寄っていたら、必要としている高齢者に届けることができます。介護の資格や技術はなくても、皆さんの日々の力をそのまま発揮いただければ活躍できます。そして、高齢者の生活はもちろん、施設にとっても大きな支えになります。

高齢者の生活支援は、市内にある介護サービス事業所や、社会福祉協議会が窓口となっている有償訪問ボランティア「あるたす」、市シルバー人材センターでも提供しています。各事業所のホームページからも求人情報を確認できます。興味のある人はお問い合わせください。

【問い合わせ】
有償訪問ボランティア「あるたす」
☎(52) 3500
牧之原市シルバー人材センター
☎(52) 5080